議長（門　瀧雄）

これをもって、提案者の提案理由の説明を終わります。

日程第13、議案第18号　平成24年度多度津町水道事業会計剰余金の処分及び歳入歳出決算認定についてを議題といたします。

提案者の提案理由の説明を求めます。

上下水道課長、河田君。

上下水道課長（河田　数明）

議案第18号　平成24年度多度津町水道事業会計剰余金の処分及び、歳入歳出決算認定について提案説明を申し上げます。剰余金の処分につきましては、地方公営企業法第32条第２項の規定に基づき、平成24年度多度津町水道事業会計決算に伴う剰余金を剰余金処分計算書（案）のとおり処分の議決を求めるものでございます。歳入歳出決算認定につきましては、同法第30条第４項の規定に基づき、議会の認定を求めるものでございます。剰余金の処分の内容といたしましては、平成24年度多度津町水道事業会計決算報告書の４ページの剰余金計算書にあります、当年度純利益、5,656万4,305円のうち、５ページの剰余金処分計算書（案）のとおり280万円を減債積立金に積み立てるものでございます。従いまして、翌年度への繰越利益剰余金は、５億2,676万9,399円でございます。次に、歳入歳出決算認定の内容について説明させていただきます。７ページをお開きください。１、概況　（１）総括事業から説明させていただきます。イ、業務状況といたしましては、清浄にして、より安全な水を供給し、安定した給水業務と水道経営を維持するため、効率的な経営に努めてまいりました。平成24年度末の給水人口は、２万3,928人、給水栓数は、１万411栓でございました。年間総配水量は、334万9,237立方メートルで、前年度と比べますと、14万9,435立方メートルの減となっております。比率にいたしますと、前年度比4.3％の減でございます。総配水量の内訳といたしまして、自己水量が、174万2,352立方メートルで、比率にいたしますと52％、県水受水量が、160万6,885立方メートルで、比率にいたしますと、48％でございます。有収水量は、310万8,969立方メートルで、前年度と比べて、１万7,996立方メートルの減、比率にいたしますと、0.6％の減でございます。有収率は、92.8％で、前年度に比べて、3.4％の増となっております。近年、節水意識の浸透により、水需要の大幅な増加は期待できない中、老朽配水管布設替工事などの資本的投資の増加と、施設の維持管理費等の増加が見込まれますが、一層諸経費の節減に努め、健全な財政運営を行っていくことで、住民の皆様のご理解を得られるものと考えております。次に、ロ、建設改良工事等でございますが、水源地取水設備の築造及び増設工事、配水管布設及び布設替え工事、消火栓新設及び移設工事等を行い、配水網の整備を行いました。

また、量水器を購入いたしました。次に、ハ、財政状況でございますが、水道事業収益は、７億1,300万3,000円で、水道事業費用は、６億3,955万1,000円で、当年度純利益は、消費税抜きで5,656万4,000円となりました。また、資本的収入１億9,326万1,000円に対し、資本的支出は、４億7,913万7,000円で、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額、２億8,587万6,000円は、当年度消費税及び 地方消費税資本的収支調整額1,370万9,000円、過年度損益勘定留保資金1,882万9,000円、当年度損益勘定留保資金２億388万4,000円、減債積立金4,945万4,000円で、補填いたしました。（２）議会議決事項は、表のとおりでございます。なお、８ページから18ページに明細を記載してありますので、後ほどご覧になっていただきたいと思います。次に１ページをお開き下さい。平成24年度水道事業決算の（１）収益的収入及び支出について説明を申し上げます。なお、金額につきましては、消費税を含んでおります。収入といたしまして、第１款水道事業収益の決算額は、７億1,300万2,659円で予算額に対し、248万7,341円、比率にいたしますと0.3％の減収でございます。内訳といたしまして、第１項営業収益につきましては、６億9,174万3,248円でございます。第２項営業外収益につきましては、2,125万9,411円でございます。次に支出といたしまして、第１款水道事業費用の決算額は、６億3,955万1,486円で、予算額に対し、7,811万514円、比率にいたしますと10.9％の不用額となりました。内訳といたしまして、第１項営業費用につきましては、５億6,879万5,485円でございます。第２項営業外費用につきましては、7,061万8,230円でございます。第３項特別損失につきましては、13万7,771円でございます。第４項予備費につきましては、支出はございませんでした。次に２ページをお開き下さい。（２）資本的収入及び支出について説明を申し上げます。収入といたしまして、第１款資本的収入の決算額は、１億9,326万1,300円で、予算額に対し、205万9,700円、比率にいたしますと、1.1％の減収でございます。内訳といたしまして、第１項企業債は１億9,000万円でございます。第２項工事負担金は326万1,300円で、これは消火栓新設及び移設工事の負担金でございます。次に、支出といたしまして、第１款資本的支出の決算額は、４億7,913万7,086円で予算額に対し、5,076万4,914円、比率にいたしますと、9.6％の不用額となりました。内訳といたしまして、第１項建設改良費につきましては、２億8,787万4,825円でございます。第２項企業債償還金につきましては、１億9,126万2,261円でございます。続きまして注記１といたしまして、資本的収入額が資本的支出額に不足する額、２億8,587万5,786円は、当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額、1,370万8,325円、過年度損益勘定留保資金1,882万9,026円、当年度損益勘定留保資金２億388万4,139円、減債積立金、4,945万4,296円で補填いたしました。注記２のたな卸資

産購入費執行額は、546万5,269円でございます。次に３ページをお開き下さい。水道事業損益計算書について説明をさせていただきます。１、営業収益は、６億5,895万3,958円で、２、営業費用は、５億5.608万1.808円ですので、営業利益は、１億287万2,150円でございます。３、営業外収益は、1,807万4.556円、４、営業外費用は、6,424万4,630円ですので、経常利益は、5,670万2,076円でございます。５．特別損失13万7,771円を差し引き、当年度純利益は、5,656万4,305円でございます。また、前年度繰越利益剰余金、４億7,300万5,094円とあわせますと、当年度未処分利益剰余金は、５億2,956万9,399円でございます。次に４ページをお開き下さい。水道事業剰余金計算書について、説明をさせていただきます。まず、資本金のうち自己資本金の当年度末残高は、17億2,701万4,250円、借入資本金の当年度末残高は、34億5,606万6,263円でございます。次に、剰余金のうち資本剰余金中の受贈財産評価額の当年度末残高は、14億58万672円、その他資本剰余金の当年度末残高は、29億2,532万3,636円でございます。利益剰余金中の減債積立金の当年度末残高は、4,920万4,350円、建設改良積立金の当年度末残高は、4,926万5,929円、未処分利益剰余金の当年度末残高は、５億2,956万9,399円でございます。資本合計といたしましては、当年度末残高、88億7,702万4,499円でございます。次に、６ページをお開き下さい。水道事業貸借対照表について、説明をさせていただきます。まず資産の部でございます。１、固定資産（１）有形固定資産合計は、82億3,529万3,564円で、（２）無形固定資産合計は、３万1,875円ですので、固定資産合計は、82億3,532万5,439円でございます。２、流動資産合計は、８億240万148円でございますので、資産合計は、90億3,772万5,587円でございます。次に、負債の部３、流動負債および負債合計は、１億6,070万1,088円でございます。次に、資本の部でございます。４、資本金のうち（１）自己資本金は、17億2,701万4,250円で、（２）借入資本金は、34億5,606万6,263円ですので、資本金合計は、51億8,308万513円でございます。続いて、５、剰余金のうち、（１）資本剰余金合計は、30億6,590万4,308円で、（２）利益剰余金は６億2,803万9,678円ですので、剰余金合計は、36億9,394万3,986円でございます。よって、資本合計は、88億7,702万4,499円で、負債、資本合計は、90億3,772万5,587円でございます。なお、19ページから34ページにかけて、水道事業会計収益費用明細書、資本的収入及び、支出明細書、固定資産明細書、企業債明細書、水道事業経営分析を記載しております。特に33ページと34ページには、水道事業経営分析の目安となる数値を、お示ししております。今後も日々効率性、収益性といった企業意識を持ち、事業経営にあたってまいります。以上、誠に簡単な説明ではございますが、よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げます。

議長（門　瀧雄）

これをもって、提案者の提案理由の説明を終わります。

ここで暫時休憩をいたします。昼１時から再開いたしたいと思います。

休憩　　午前11時58分

再開　　午後１時00分

議長（門　瀧雄）

それでは再開いたします。

先ほどの議案第18号の提案説明のところで上下水道課のほうから訂正の申出がありますので、許可したいと思います。

上下水道課長、河田君。

上下水道課長（河田　数明）

議案第18号で歳入歳出決算認定につきまして、提案説明をさせていただきましたが、決算報告書と説明内容が一部違っておりましたので訂正をさせていただきます。決算報告書の４ページをお開き下さい。水道事業剰余金計算書の説明におきまして、剰余金のうち、資本剰余金中の受贈財産評価額の当年度末残高を14億58万672円と説明させていただきましたが、正しくは１億4,058万672円でございますので、訂正して深くお詫び申し上げます。